

長唄の響き「心豊かに」 蕨の老健施設をプロが慰問



東音会の長唄演奏を楽しむお年寄りたち
—蕨市北町のグリーンビレッジ蕨

蕨市北町の介護老人保健施設グリーンビレッジ蕨(山梨美紀夫施設長)で、長唄東音会の慰問コンサートが行われ、入所者やデイサービス利用者ら約100人が耳を傾けた。

NPO医学・学術・文化研

究センター(代表・隅崎達夫元日本医科大学教授)と富士通の協働事業として実施。隅崎さんの「お年寄りを本物の邦楽で元気づける慰問活動をしたい」という呼び掛けに東音会が応じて実現した。

東音会は東京芸術大学邦楽

科の卒業生で結成した、60年の歴史を誇るプロ集団。この日は弁慶と牛若丸の五条大橋の出会いを描いた「橋弁慶」と、江戸の夏の風情を描いた「菖蒲浴衣」の2曲を演奏した。

同施設の経営母体戸田中央医科グループ会長の中村隆俊さん(89)も駆け付けた。医師でもある隈崎さん(75)も三味線で出演し、「今は長唄に夢中。でも、元気なことは中村会長にかなわない」と言う。

東音会の岩田喜美子さんが三味線でにわか雨を表現する様子など、長唄の魅力を分かりやすく説明。コンサートを聞いた行田市出身の須永千代さん(97)は、「長唄は初めて、説明も分かりやすかった」と、楽しめたようだ。

同施設で看護師や介護士ら93人を束ねる療養部長、坂口信恵さんは「じっと聞いてみると気持ち豊かになる感じ。いいですね」。事務長の石原昌幸さん(53)は「迫力と色気を感じました」と感想を話した。